



【平成30年度・第2次筆記試験】

## 事例Ⅳ（財務・会計戦略） 模範解答例

（この解答例は、11月2日16:00 現在のものです）

### 第1問（配点24点）

#### （設問1）

	(a)	(b)
①	自己資本比率	35.59 (%)
②	売上高営業利益率	1.20 (%)
③	固定資産回転率	13.07 (回)

②別解：「売上高販売費一般管理費率 22.95%」

ただし、同業他社とは事業構造が違ふと思われるため、比較対象としては営業利益率が本命。

③別解：「有形固定資産回転率 17.08回」

ただし、無形固定資産、投資その他の資産も含めた固定資産での比較が本命。

#### （設問2）

自己資本が厚く財務構造が健全である。支店・営業所などの固定資産の有効活用と利益率の改善が課題である。（50字）

### 第2問（配点31点）

#### （設問1）

	(a)	(b)
①	3.30 %	$\begin{aligned} \text{WACC} &= \frac{179}{503} \times 8\% + \frac{324}{503} \times 1\% \times (1 - 0.3) \\ &= 3.2978\% \dots \approx 3.30\% \end{aligned}$
②	6.27 百万円	$\begin{aligned} \Delta \text{企業価値} &= \Delta \text{FCF} / \text{WACC} \text{ より、} \\ \Delta \text{企業価値} &= \text{増加した資産とすると} \\ \Delta \text{FCF} &= 190 \times 3.2978\% \dots \approx 6.265 \dots \approx 6.27 \text{ 百万円} \end{aligned}$

#### （設問2）

(a)	3.8 百万円	(b)	$\text{FCF} = \{400 - (395 + 1)\} \times 0.7 + 1 = 3.8$
-----	---------	-----	---

(c)

企業価値の向上につながっていない。理由は、増加キャッシュフロー3.8百万円が、増加した資産に対する要求キャッシュフロー6.27百万円より少ないため。（70字）

**(設問3)**

(a)	1.3	%	(b)	$\Delta \text{企業価値} = \frac{\Delta \text{FCF}}{\text{WACC} - \text{成長率}}$ $190 = \frac{3.8}{(3.30\% - \text{成長率})}$ $(3.30\% - \text{成長率}) = \frac{3.8}{190} = 2\% \quad \therefore \text{成長率} = 1.3\%$
-----	-----	---	-----	---

**第3問 (配点 30点)**

**(設問1)**

	(a)	(b)
①	73.30	% 売上高 = 1,503 + 550 = 2,053 変動費 = $2,053 \times \left( \frac{1,047}{1,503} + \frac{782}{1,503} \times 7\% \right) = 1,504.905 \dots$ 変動費率 = $\frac{1,504.905 \dots}{2,053} = 73.30\%$
②	76	百万円 営業利益 = 売上高 - 変動費 - 固定費 = 2,053 - 1,504.905... - 472 = 76.095... ≒ 76 百万円

**(設問2)**

営業所は賃借のため固定資産への投資規模は小さい。費用構造の特徴は、変動費率が高く、変動費の割合が固定費と比較して大きい。(60字)

**(設問3)**

当面の影響は、営業利益が増加し成長性に寄与する。見通しは、一定の売上が期待できる地域での開設により更なる成長が期待できる。(59字)

**第4問 (配点 15点)**

業務委託先が提供するサービス水準が低く、バラツキがある場合である。方策は、現場での工夫を定期的な研修等で全社的に共有し標準化を図ることである。(70字)

文責：AAS 東京 早坂健治

2次試験で悩んだら、ぜひAAS東京へお越しください！

本科講座や合格判定合宿、アシストゼミ、公開模試の開催を通して、  
中小企業診断士2次試験への「明確な事例解法」を提供しています。  
診断士受験生応援ブログ「合格アミーゴス」も毎日執筆中です！

aas 東京

検索